



常葉学園高等学校 新校舎完成予想図（平成25年4月完成予定）



高校に隣接して、常葉学園グループの新学部が設置される予定。（2013年4月）
専門性の高い大学の学部が同じ敷地内に立地する環境で、実習・体験の幅が広がります。

大学統合、新学部設置、常葉学園中・高校の校舎新築について

平成22年12月23日/学校法人 常葉学園

1. 大学統合について

1) 統合の趣旨

3大学（常葉学園大学・浜松大学・富士常葉大学）の統合は、学園内ではかねてから議論されていたが、18歳人口がここしばらく安定期にあるこの時期に一つのブランドとして集約することにより、静岡県において圧倒的スケールと多様な学部・学科を有する総合大学として再構築し、良識ある人材を輩出して地域社会により一層貢献することを目的とするものである。なお、常葉学園短期大学は、3大学が統合して誕生する（仮称）常葉大学の短期大学部とする。

2) 統合の時期

平成25年4月1日。統合効果を最大限活かすために経過措置はとらない計画とする。

また、統合と合わせて法人や各学校の名称変更についても検討していく。

3) 統合後の大学の概要

①学部・大学院等の構成

（仮称）常葉大学 …………… 10学部19学科1別科

（仮称）常葉大学大学院 …………… 5研究科7専攻

（仮称）常葉大学短期大学部 …………… 4学科3専攻

②キャンパス配置

静岡キャンパス（現・常葉学園大学所在地）

浜松キャンパス（現・浜松大学所在地）

富士キャンパス（現・富士常葉大学所在地）

短期大学部・静岡キャンパス（現・常葉学園短期大学所在地）

2. 新学部設置について

1) 計画策定の背景

現在、常葉学園中・高校の校地・校舎として使用している静岡市の水落校地は、市民からの注目度が高く、静岡駅や繁華街にも近接し、交通の利便性や集客性に優れているという恵まれた立地にある。このような好条件を備えた土地は本学園にとって貴重な財産であり、老朽化に伴う同校校舎の建て替えに併せ、高付加価値力を最大限引き出す（＝新学部設置）ことにより有効活用を図るものである。

2) 基本的考え方

水落校地には、約17,000平方メートルの建築面積を有する建物を確保できる。このうち半分の面積は、老朽化した常葉学園中・高校の新校舎としての建て替えに、残り半分の面積は、平成25年4月に統合して誕生する予定の（仮称）常葉大学に設置する新学部の校舎として活用し、総合大学化を推し進めるものである。

3) 整備の時期

平成25年4月1日

4) 新学部（仮称）の組織等

（単位：人）

| 学部名 | 学科名 | 入学定員 | 収容定員 | 学士の区分 |
|--------|--------|------|------|-----------|
| 法学部 | 法律学科 | 80 | 320 | 学士（法学） |
| | 地域政策学科 | 80 | 320 | 学士（地域政策学） |
| 看護医療学部 | 看護学科 | 80 | 320 | 学士（看護学） |
| | 理学療法学科 | 60 | 240 | 学士（理学療法学） |
| 合計 | | 300 | 1200 | |

5) 設置する理由

〈法学部〉

- ① 法学系学部は、県内では静岡大学だけにしか設置されておらず、地元の法学系学部への進学を希望する生徒の受け皿となるため。
- ② 法律学科は、従来の法曹養成機関ではなく、法的知識やリーガルマインド（法的思考力）を活用し、地域社会に起きているさまざまな問題を処理・解決できる能力を持った人材を育成するため。
- ③ 地域政策学科は、政策提言能力、政策立案能力、コンサルティング能力を身に付け、地域社会が抱える公共政策、社会政策、経済政策等さまざまな政策課題を分析し、解決に導く能力を持った人材を育成するため。
- ④ これまで以上に多様な人材を育成して地域社会に送り出すことにより、地域貢献を果たすとともに、県下最大の私立総合大学としてのプレゼンス（存在感）を発揮するため。

〈看護医療学部〉

- ① とともに地域社会から強く人材養成が求められている専門分野であり、学生の確保（入口）や就職先の確保（出口）も安定しているため。
- ② 看護学科は、隣接することになる常葉学園高校の生徒募集にも良い影響を及ぼすことが期待できるため。
- ③ 理学療法学科は、常葉学園静岡リハビリテーション専門学校の施設・設備を有効活用して4大化を図ることができるため。
- ④ これまで以上に多様な人材を育成して地域社会に送り出すことにより、地域貢献を果たすとともに、県下最大の私立総合大学としてのプレゼンス（存在感）を発揮するため。

3. 常葉学園中・高の校舎新築について

1) 新築する理由

経年劣化による老朽化が進んでいる常葉学園中・高校の校舎を現校地に新築する。現校地には、約17,000平方メートルの建築面積を有する建物を確保できるので、このうち半分の面積を常葉学園中・高校の新校舎として活用するものである。

2) 整備の時期

平成25年4月1日